

日語能力檢定考試 N1 重組題型的分析

趙 順文

開南大學 教授

摘要

包括淡江大學在內的台灣各大學日文系所，漸進採用通過日語能力檢定考試 N1 做為畢業的門檻，其重要性不可言喻。特別是新題型的 N1 重組考題對學生而言，更是一大考驗。

本稿以 2010 年至 2013 年之四年間 N1 重組型考題為語料，依據結合價文法理論，透過結合價結構圖，顯示句子的核心在於動詞。單句動詞結構上的結合關係為任何必用成分與可用成分被特定的動詞所支配。而複句動詞結構上的結合關係為前項動詞透過轉化作用成為副詞類或名詞類形成新的必用成分或可用成分被後項動詞所支配。

透過結合價結合圖可清楚地顯示句內各個成分與各個動詞之間的結合關係，對 N1 重組題型之學習效果必有所助益，而對提升日語教學效果與日語研究當有所貢獻。

關鍵詞：日語能力檢定考試 N1、重組題型、結合價文法、結合價結構圖、結合關係

受理日期：2014.08.21

通過日期：2014.10.24

A study of the test item of unscrambling the mixed-up sentences in Japanese Language Proficiency N1Test

TIO SunBun

Kainan University

Abstract

In Taiwan, more and more departments of Japanese language in University, such as Tamkang University, ask students to meet a graduation requirement, passing Japanese Language Proficiency N1 Test (JLPT N1). Accordingly, JLPT N1 test are becoming increasingly important. Of all test sections in JLPT N1, unscrambling the mixed-up sentences might be the most challenging one for test takers.

This study collected questions of unscrambling the mix-up sentences in JLPT N1 tests from 2010 to 2013 to examine the structural or grammatical relation between all elements in a sentence. The analyses were based on the valency grammar, and the results indicate that the core of sentences lies on verbs. For simple sentences, the verbs structurally determine whether an element is required or optional. For complicate sentences, the former verbs in the embedded clause must be transformed to adverbial or nominal form, in order to develop new required element or optional element which is dominated by the latter verb.

Valence structure tree can clearly illustrates the valency relation between all elements and all verbs in one sentence. This would surely benefit the learning effects on answering the questions of unscrambling mixed-up sentences, and also improve Japanese language teaching and study.

Keywords: Japanese Language Proficiency Test N1, unscrambling mixed-up sentences, valency grammar, valence structure tree, valency relation

日本語能力検定試験 N1 の組合せ文の一考察

趙 順文

開南大学 教授

要旨

淡江大学日本語学科をはじめ、いくつかの大学の日本語学科卒業に欠かせない資格の一つとして日本語能力検定試験の合否が取り上げられている。本稿ではこうした現状の中で結合価文法の分析理論を全面的に日本語に応用し、特に 2010 年から 2013 年までの日本語能力検定試験 N1 の組合せ文を分析・探求した。

結論として①結合価文法に基づいた結合価構造図で明らかなように、文の核心は動詞にある、②文中の名詞類と副詞類は必須成分にせよ随意成分にせよ決まって特定の動詞に支配される結合関係を示している、③自立していない前の動詞は後続の名詞類か副詞類に転用される必須成分か随意成分として後の動詞に支配される動詞間の結合関係を示すという三点が取り上げられよう。

キーワード：日本語能力検定試験 N1、組み合わせ文、結合価文法、結合価構造図、結合関係

日本語能力検定試験 N1 の組合せ文の一考察

趙 順文

開南大学 教授

1. はじめに

日本語能力検定試験 N1 の合否は今や淡江大学日本語学科をはじめ、いくつかの大学の日本語学科卒業に欠かせない資格の一つになっている。本稿ではこうした現状の中で結合価文法の分析理論を全面的に日本語に応用し、特に 2010 年から 2013 年までの日本語能力検定試験 N1 の組合せ問題文を分析・探求し、この理論の有効さを立証すると同時に、学習指導を通じて日本語の学習効果をあげることによって、日本語教育ないし日本語学の研究に寄与するところ目的がある。

2. 日本語の文構造¹

結合価文法では日本語の文構造は文のかなめとなる〈動詞類〉に〈名詞類〉と〈副詞類〉を後から付け加えることができるものと考えられている。狭義の〈動詞類〉は動詞と助動詞、広義の〈動詞類〉は形容詞、形容動詞および準動詞の「だ」となっている。個々たる動詞の実現において意味的に〈名詞類〉と〈副詞類〉が修飾する。名詞と副詞との分類は往々にして曖昧的であり、両者の間に明確な一線を画すのは難しい。原則的に名詞はその後続の助詞を通じて、主格、対格、起点格ないし位置格などの統語的機能を持つものと考えられよう。その他は副詞類に属する。

日本語の伝統文法の品詞分類を参考に、〈動詞類〉は動詞、形容詞、形容動詞と準動詞「だ」、〈名詞類〉は名詞とその後続の助詞、〈副詞類〉は副詞、感動詞、接続詞と接続助詞に分けることにした。ちな

¹ 本稿では日本語の文構造の記述に関しては既出の論文と重複する所が大いにあることに注意されたい。

- (1) 彼はよくここに来る。
- (2) 彼はやさしい。
- (3) 彼は元気だ。
- (4) 彼は学生²だ。

(1a)

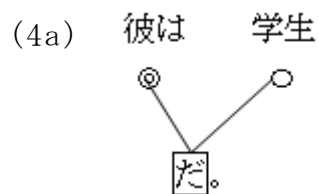
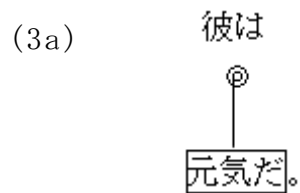
彼は よく ここに

(2a)

彼は

やさしい。

141



注意すべきは例(1)、例(2)と例(3)はもっぱら〈名詞類〉、例(4)は〈名詞類〉と名詞が両立しているであるという点であろう。次の例文を参照されたい。

(5) 来る。

(6) やさしい。

(7) 元気だ。

(8) 学生だ。

例(5)、例(6)、例(7)と例(8)はいずれもはしょった文だが、語用論的に解釈すれば、おのずから立派な文と考えられよう。

(9) 来る。

→来る

→来る仲間

→来るので、

(10) やさしい。

→やさしい

→やさしい仲間

→やさしいので、

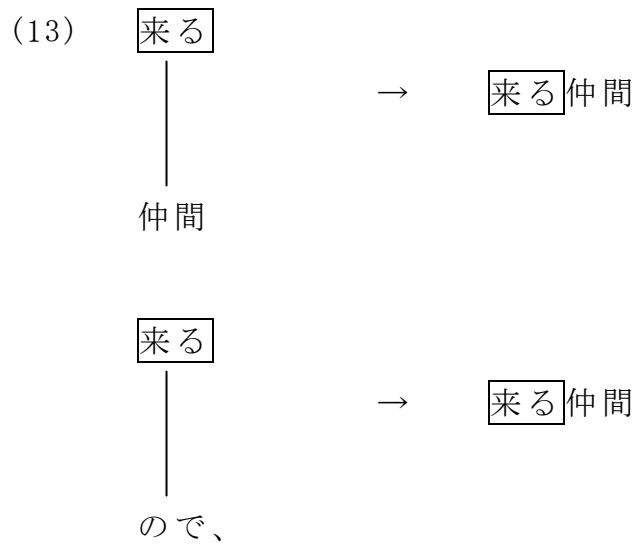
(11) 元気だ。

→元気な
→元気な仲間
→元気なので、

(12) 学生だ。

→学生だ
→学生の仲間
→学生なので、

例(9)、例(10)、例(11)と例(12)は句点なしの〈動詞類〉は自立しておらず、決まって名詞か〈副詞類〉を後続させることによって、名詞か〈副詞類〉に転用され、複文の名詞節ないし副詞節として位置づけられる。これらの文は結合価構造図で示せば、次のようである。



(14) やさしい

仲間

→ やさしい仲間

やさしい

ので、

→ やさしいので、

(15) 元気な

仲間

→ 元気な仲間

元気な

ので、

→ 元気なので、

(16) 学生の

仲間

→ 学生の仲間

学生な

ので、

→ 学生なので、

例(13)、例(14)、例(15)と例(16)の結合価構造図は本来ならば垂直の左図とすべきところを、水平の右図で示せば、スペース縮小の効果があるので、一層簡潔に見える。

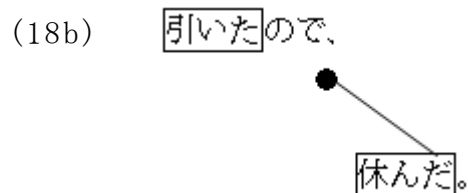
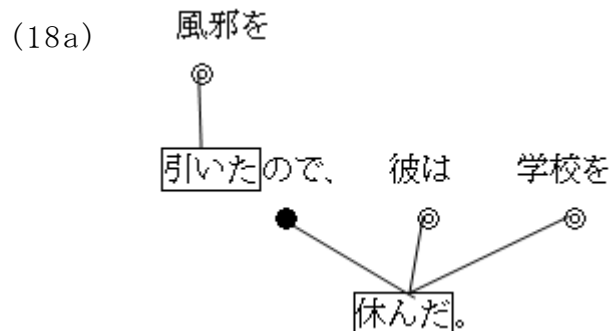
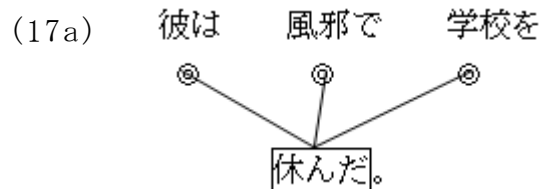
〈動詞類〉が一つの文は単文であるのに対し、二つまたは二つ以上の文は複文であるとした上で、次の用例とその結合価構造図を参照されたい。

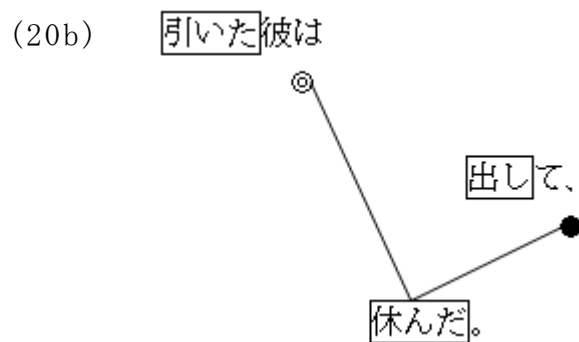
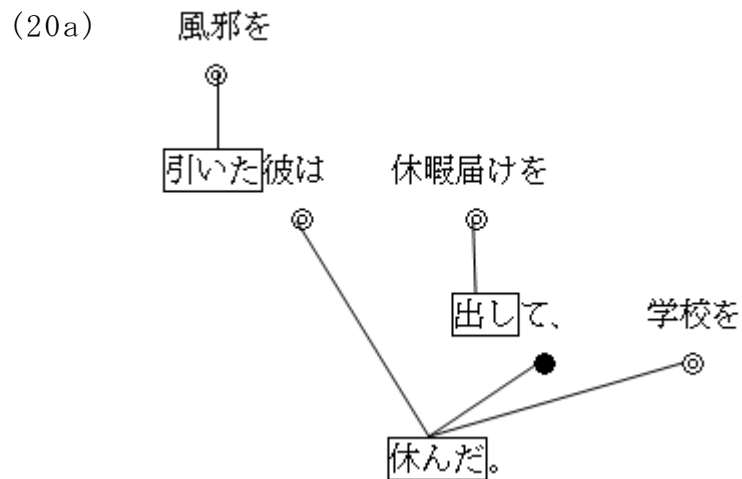
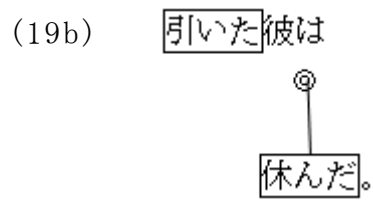
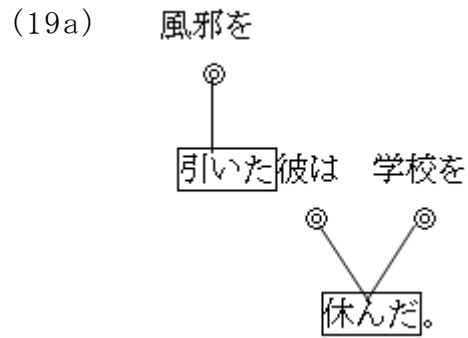
(17) 彼は風邪で学校を休んだ。

(18) 風邪を引いたので、彼は学校を休んだ。

(19) 風邪を引いた彼は学校を休んだ。

(20) 風邪を引いた彼は休暇届を出して、学校を休んだ。





例(17a)では「彼は」「風邪で」「学校」は『休んだ』に支配される単文であるのに対して、例(18a)では「風邪を」が『引いた』に支配されると同時に、『引いた』が後続の「ので」を通じて副詞類に転用される「引いたので」「彼は」「学校を」の三項は『休んだ』に支配され、例(19a)では「風邪を」は『引いた』に支配されると同時に、

『引いた』が後続の「彼」を通じて名詞に転用される「引いた彼は」「学校を」の二項は『休んだ』に支配され、例(20a)では「風邪を」は『引いた』に支配され、かつ「休暇届を」は『出し』に支配されると同時に、なおかつ『引いた』が後続の「彼」を通じて名詞に転用される「引いた彼は」、『出し』が後続の「て」を通じて副詞類に転用される「出して」と「学校を」の三項は『休んだ』に支配されるというようにいずれも複文に属する。もっとも文の核心は〈動詞類〉であるだけに、煎じ詰めていえば〈動詞類〉と〈動詞類〉との結合関係は文をなすと言えよう。例(18b)では「引いたので」は『休んだ』、例(19b)では「引いた彼は」は『休んだ』、例(20b)では「引いた彼は」「出して」は『休んだ』に支配されるというように文中の〈動詞類〉は自立しておらず、決まって後続の〈名詞類〉か〈副詞類〉を通じて〈名詞類〉か〈副詞類〉に転用され、文末の〈動詞類〉に支配されると結論できよう。

3. 分析

結合価文法では三つの品詞（動詞類、名詞類、副詞類）の間に働く相互に支配する関係に着目し、動詞類は文を形成するのに名詞類と副詞類を支配し、単文をなすのに対し、動詞類は文として自立しておらず、名詞類か副詞類を後続させることによって、名詞類か副詞類に転用され、また後続の動詞類に支配される複文をなすという原理が働いている。よって分析にあたって、要は文中の動詞類と動詞類との結合関係を見つけることにある。いわゆる従来の修飾関係は結合価文法においては支配ないし転用関係に相当するものと考えられる。

3.1 単一動詞の結合関係

次の実例を見られたい。

(21) 動物園のゴリラが、私のことをずっと見ていた。私を仲間

_____ ★ _____ だろうか。

1 と 2 だ 3 でも 4 思っていたの

(22) このレストランは_____ ★ _____と評判だ。

1 だけあって

2 主人が

3 魚屋も経営している

4 魚料理がおいしい

(23) A「申し訳ない。僕が_____ ★ _____こと
とになってしまつて。」

B「あ、いいえ、気にしないでください。」

1 残業してもらう

2 君にまで

3 ミスをした

4 ばかりに

(24) そもそもこの情報が、責任者である彼に_____ ★ _____
_____と思う。

1 伝わっていない

2 おかしい

3 こと

4 からして

(25) この植物はとても強いので、_____ ★ _____
ちゃんと育ちますよ。

1 みずやりを 2 さえ 3 しなければ 4 忘れ

(26) 1 日午後4時ごろ、システムトラブルの影響により、一時メ
ールサービスに障害が発生しました。お客様に_____
_____ ★ _____願ひ申し上げます。

1 今後は再発防止に努めて参りますので

2 深くおわび申し上げますとともに

3 多大なご不便をおかけしましたことを

4 引き続き本サービスをご利用くださいますよう

(27) アルバイト先の仲間は、みんな_____ ★ _____
_____話でいつも盛り盛り上がっています。

1 こともあって

2 ならではの

3 同世代

4 年が近い

(28) 山田監督は私の恩人です。今の_____ ★ _____
_____ことです。

1 あつての

2 あるのも

3 私が

4 監督

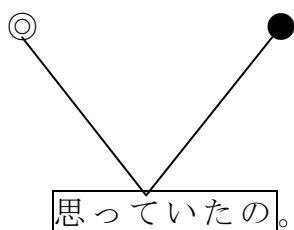
(29) このドラマの人気は、ストーリーも _____ ★
 _____といえる。

1 ところが 2 より 3 よる 4 人気と知名度

(30) 近年の急速なインターネットの普及がマスメディアに _____ ★ _____。

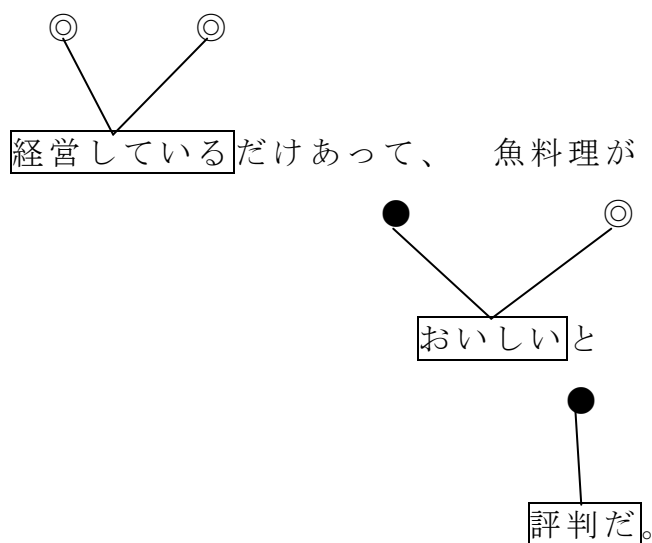
1 少なからぬ 2 ものがある 3 与えた 4 影響は

(21a) 私を 仲間だとでも

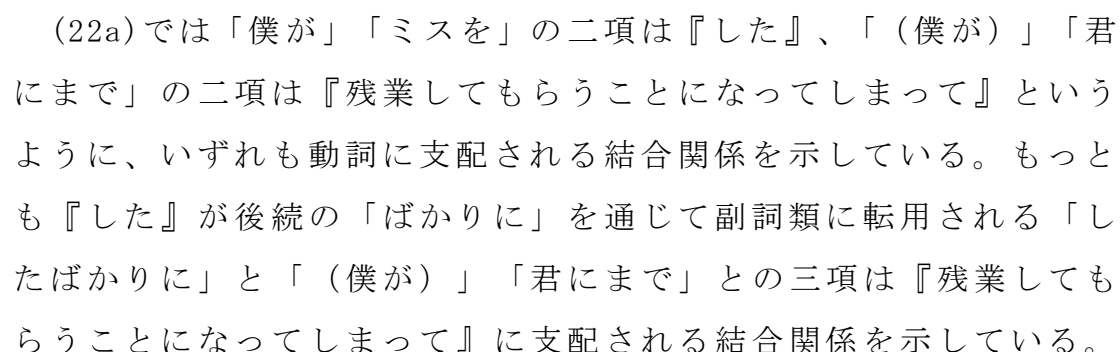


(21a) では「だれかが」「私を」と「仲間だ」が後続の「とでも」を通じて副詞類に転用される「仲間だ とでも」の三項は動詞『思っていた』に支配される結合関係を示している。もっとも「だれかが」「私を」「仲間とでも」の三項は動詞『思っていた』に支配される結合関係と考えてもよからう。

(22a) 主人が 魚も



(23a) 僕が ミスを

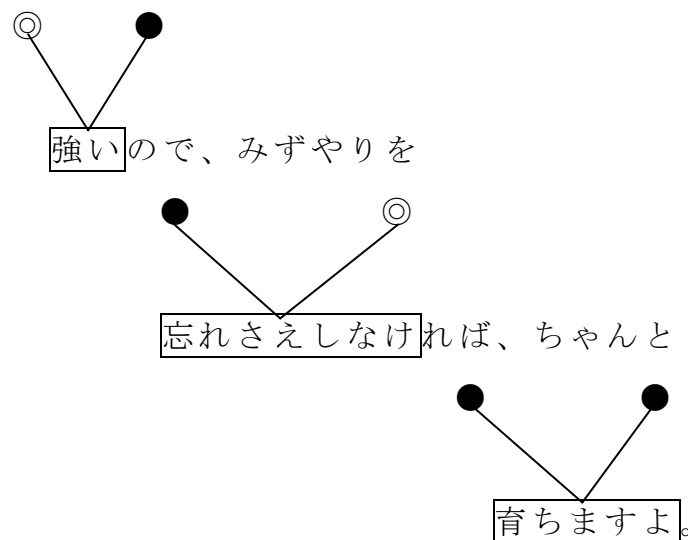


(24a) そもそもこの情報が 責任者である彼に



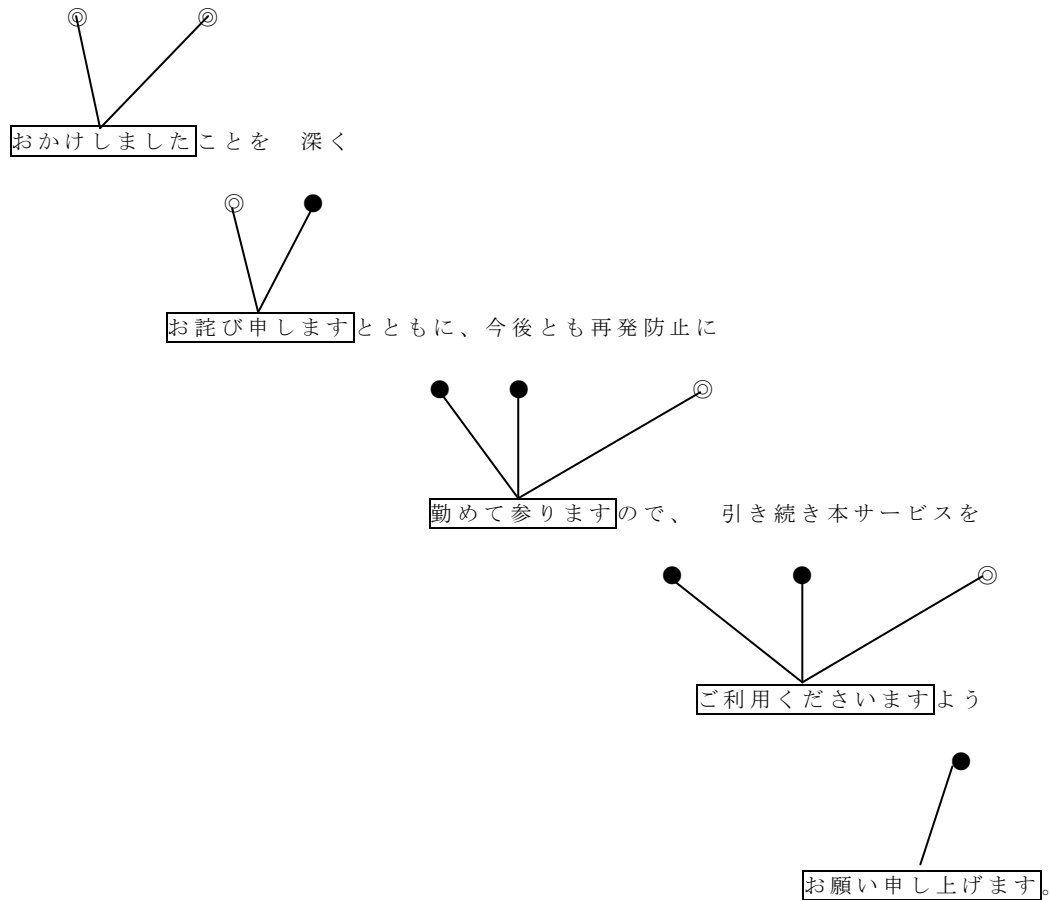
(24a)では「この情報が」「彼に」の二項は『伝わっていない』、
「（この情報が）」の一項は『おかしいと思う』というように、いずれも単一動詞に支配される結合関係を示している。もっとも『伝わっていない』が根拠を提示する後続の「ことからして」を通じて名詞類に転用される「伝わっていないことからして」と「（この情報が）」との二項は『おかしいと思う』に支配される結合関係を示している。

(25a) この植物はとても



(25a) では「この植物は」「とても」の二項は『強い』、「（だれかが）」「みずやりを」の二項は『忘れさえしなけ』、「（この植物は）」「ちゃんと」の二項は『育ちますよ』というように、いずれも単一動詞に支配される結合関係を示している。もっとも『強い』が後続の「ので」を通じて副詞類に転用される「強いので」と「（だれかが）」「みずやり」との三項は『忘れさえしなけ』、『忘れさえしなけ』が後続の「れば」を通じて副詞類に転用される「忘れさえしなければ」と「（この植物は）」「ちゃんと」との三項は『育ちますよ』というように、いずれも後続の動詞に支配される結合関係を示している。

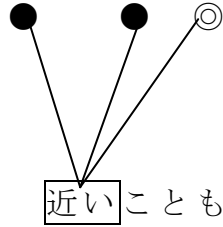
(26a) お客様に多大な不便を



(26 a) では「(私どもは)」「お客様に」「多大な不便を」の三項は『おかけしました』、「(私どもは)」「(お客様に)」「おかけしましたことを」の三項は『お詫び申します』、「(私どもは)」「今後とも」「再発防止に」の三項は『努めて参ります』、「(お客様は)」「(私どもに)」「引き続き」「本サービスを」の三項は『ご利用くださいます』、「(私どもは)」「(お客様に)」「ご利用くださいますよう」の三項は『お願い申し上げます』というように、いずれも単一動詞に支配される結合関係を示している。もっともこれらの動詞間の結合関係は転用される副詞類か名詞類によって保たれている。

(27a) アルバイト先の

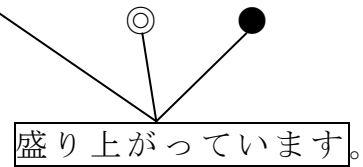
仲間はみんな年が



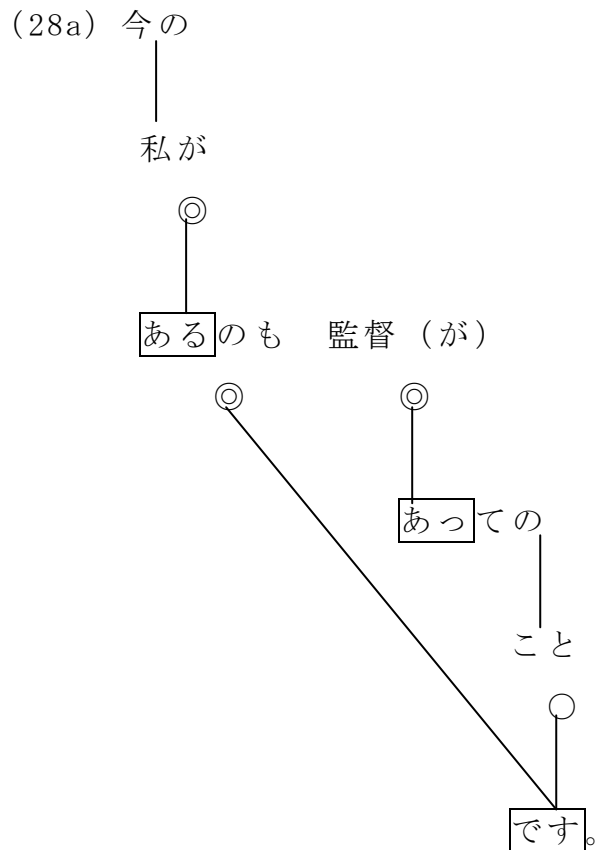
こともあって、同世代ならではの



話でいつも



(27a) では「仲間は」「みんな」「年が」の三項は『近い』、「仲間は」「話で」「いつも」の三項は『盛り上がっています』というように、いずれも単一動詞に支配される結合関係を示している。もっともこの例に即して「アルバイト先の」は「仲間」、「同世代ならではの」は「話」を形容する比較的単純な結合関係を示している。



(28a) では「私が」の一項は『ある』、「監督 (が)」の一項は『あつ』というように、いずれも単一動詞に支配されるほか、『あつ』が後続の「て」ないし「の」を通じて「ことを」形容する比較的単純な結合関係を示している。

(29a) かつて映画スターであった山氏初挑戦で知事選に勝利したのは、能力という _____ ★ _____ 大きい。

1 ところが 2 より 3 よる 4 人気と知名度

(29a) このドラマの

人気はストーリーもさることながら

俳優の

演技力に

よるところが

大きいといえる。

(29a) では「人気は」「ストーリーもさることながら」「ところが」の三項は『大きいといえる』、「演技力に」は『よる』というように、いずれも動詞に支配される結合関係を示している。

(30a) 近年の

急速な

インターネットの

普及がマスメディアに

与えた影響は 少なからぬものが

ある。

(30a) では「普及が」「マスメディアに」「(影響を)」の三項は『与

えた』、「(ものが)」の一項は『少なからぬ』、「影響(に)は」「ものが」の二項は『ある』というように、いずれも動詞に支配される結合関係を示している。

3.2 動詞間の結合関係

次の実例を見られたい。

(31) いったん仕事を引き受けた _____ ★ _____
最後までやり通すに違いない。

1 彼の性格 2 からして 3 からは 4 責任感の強い

(32) ちょっと考えれば、さっきの話が冗談
★ _____、単純な彼は簡単に信じてしまった。

1 わかるだろう 2 だって 3 に 4 ことくらい

(33) 趣味を持つのは良いことだと思いますが、家庭を犠牲
_____ ★ _____それはちょっと問題です。

1 と 2 まで 3 になると 4 にして

(34) 管理職になったら、たとえ _____ ★ _____
部下の失敗も引き受けるというくらいの覚悟がなくてはならない。

1 だとして 2 がなくても 3 自分には責任 4 自分の責任

(35) 新番組でこれまでにない役柄を演じる俳優の上田秋さん。役
作りづくりに悩んでいる _____ ★ _____
という。

1 と 2 そうでもない 3 思いきや 4 のか

(36) _____ ★ _____ 良心は残っているはずだ。

1 どこかに 2 悪人で 3 あろうと 4 どんな

(37) たばこの値段が _____ ★ _____ ことだ。

1 わたしにとっては 2 上がろうと下がろうと

3 どうでもいい 4 たばこを吸わない

(38) 勉強に専念するためにアルバイトをすぐにでも
_____ ★ _____ 困っている。

1 やめられず 2 スタッフ不足から 3 やめるに 4 やめたいが

(39) 将棋は好きなら上達する。将棋が好きだということ

_____ ★ _____ 強くなれるのだ。

1 すでに才能なのであって 2 あればこそ

3 自体が 4 好きだという気持ちが

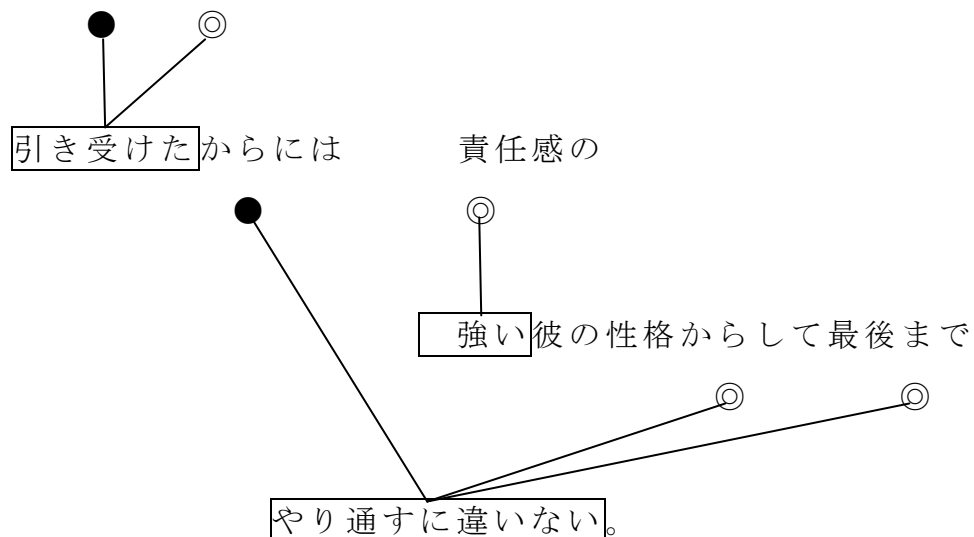
(40) 先月、父に手作りの箸をプレゼントした。長くて _____

★ _____ 気に入ってくれているのかもしれない。

1 と言いながらも 2 ところを見ると 3 なんだか使いにくい

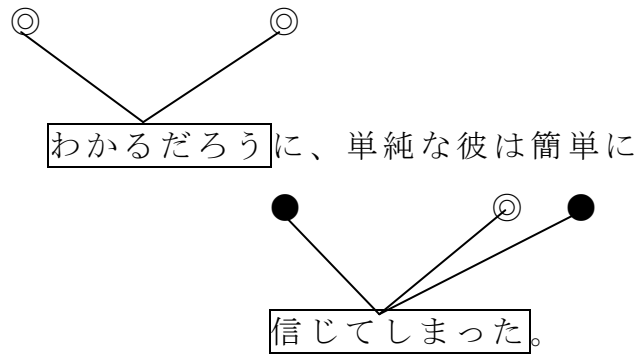
4 毎日使っている

(31a) いったん仕事を



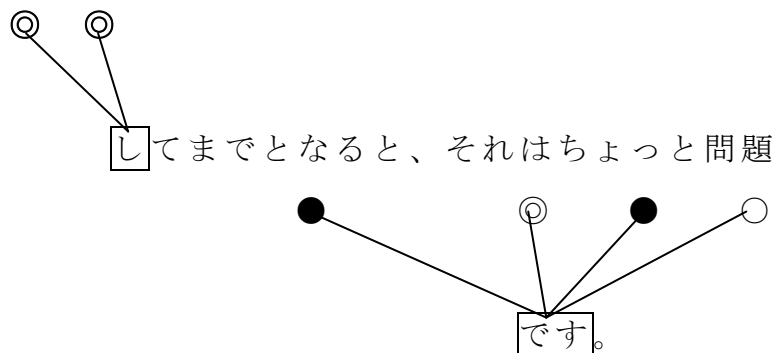
(31a) では『引き受ける』は後続の「からには」を通じて副詞類に転用される随意成分として『強い』、『強い』は後続の「彼の性格からして」を通じて名詞類に転用される随意成分として『やり通すに違いない』というように、いずれも前の動詞が後の動詞に支配される動詞間の結合関係を示している。

(32a) さっきの話が 冗談だってことくらい



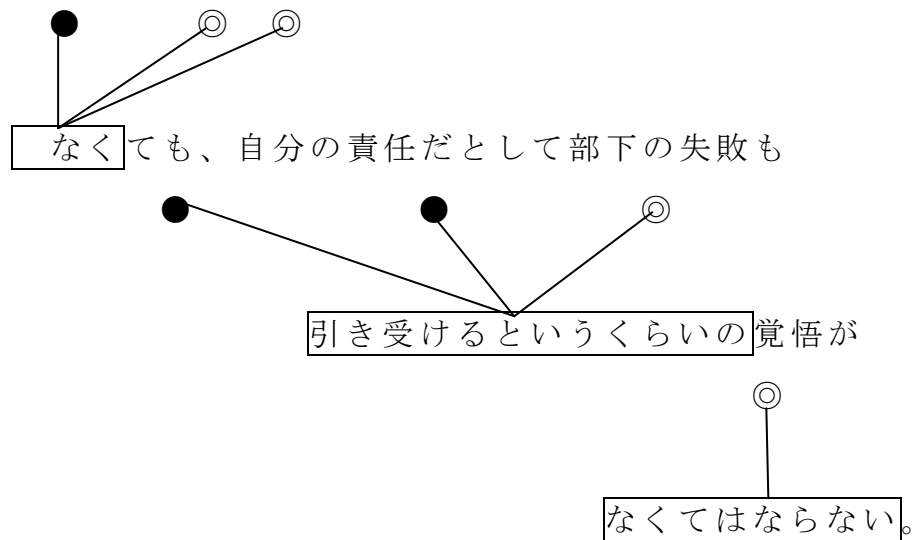
(32a) では『わかるだろう』は後続の「に」を通して副詞類に転用される随意成分として『信じてしまった』に支配される動詞間の結合関係を示している。もっとも「冗談」「だって」「ことくらい」は「冗談だということくらい」のはしよった口語的表現と考えられよう。

(33a) 家庭を犠牲に



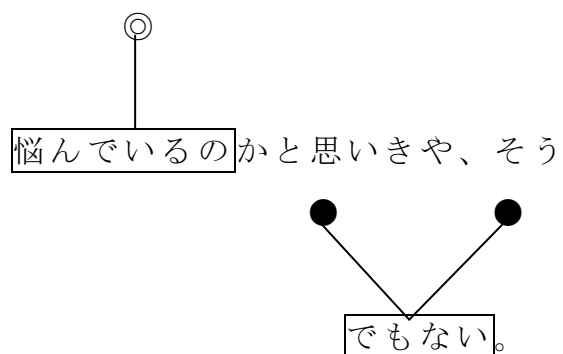
(33a) では『し』は後続の「てまで」さらに「となると」を通じて、副詞類に転用される随意成分として『です』に支配される動詞間の結合関係を示している。

(34a) たとえ自分には責任が



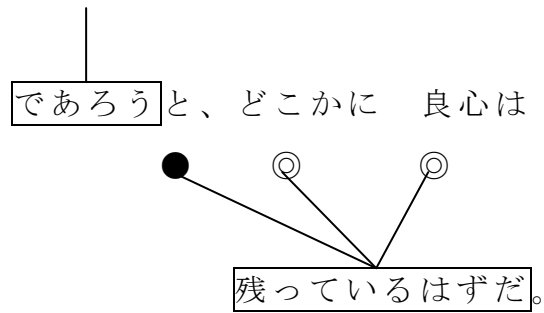
(34a) では『なく』は後続の「ても」を通じて副詞類に転用される随意成分として『引き受けるくらいの』、『引き受けるくらいの』は後続の「覚悟が」を通じて名詞類に転用される必須成分として『なくてはならない』というように、いずれも次から次へと前の動詞が後の動詞に支配される動詞間の結合関係を示している。

(35a) 役作りに



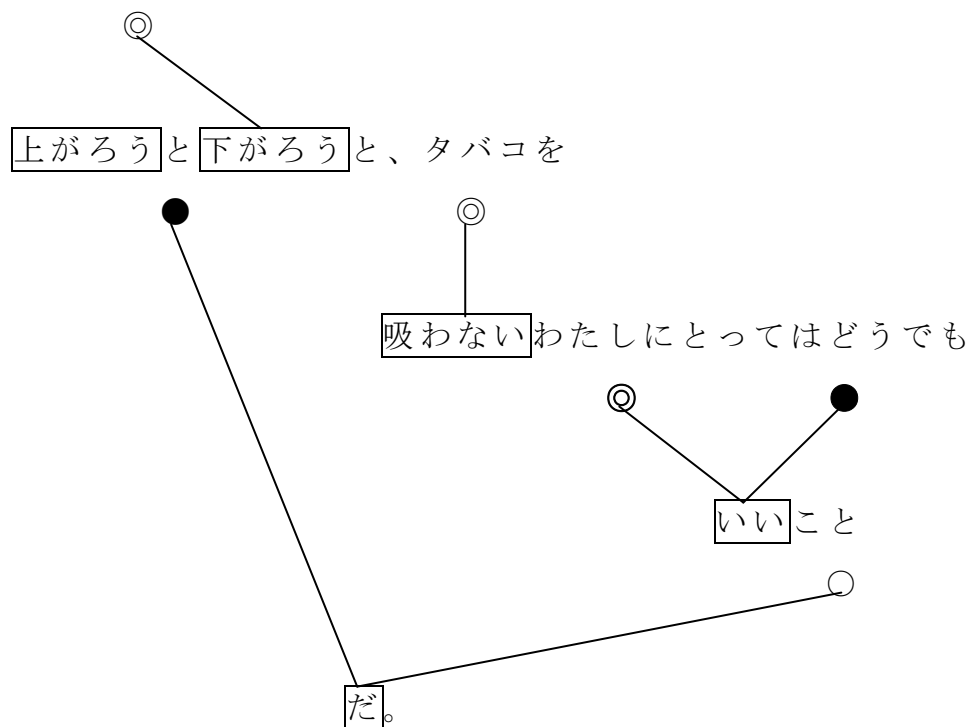
(35a) では比較的単純な例だが、『悩んでいる』は後続の「かと思いきや」を通じて副詞類に転用される随意成分として『でもない』に支配される動詞間の結合関係を示している。

(36a) どんな悪人



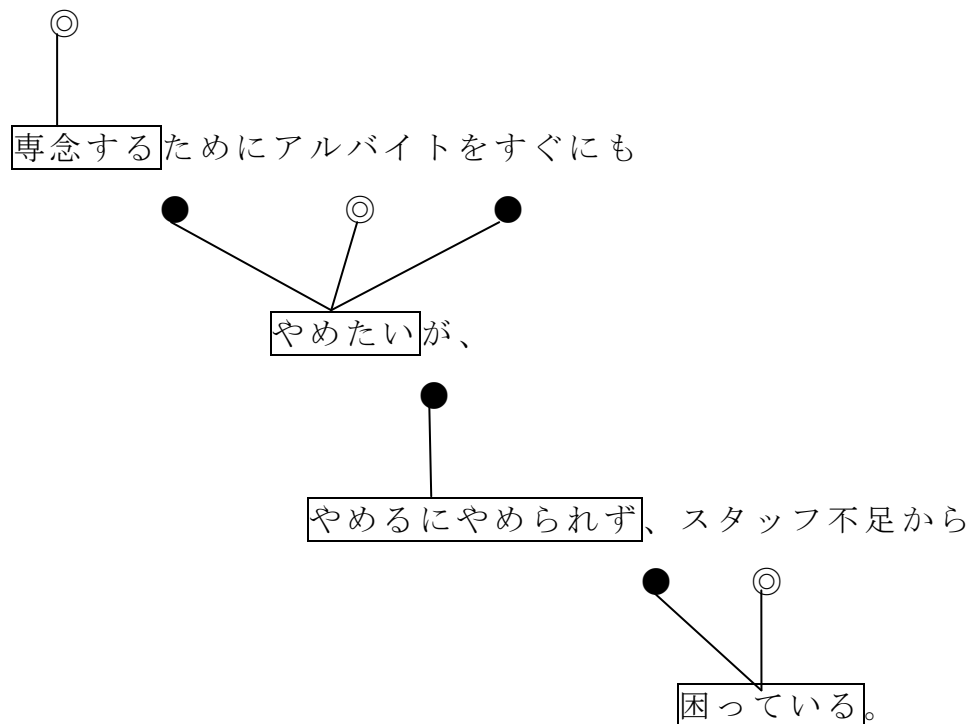
(36a) は (35a) と同様、比較的単純な例だが、『であろう』は後続の「と」を通じて副詞類に転用される随意成分として『残っているはずだ』に支配される動詞間の結合関係を示している。

(37a) たばこの値段が



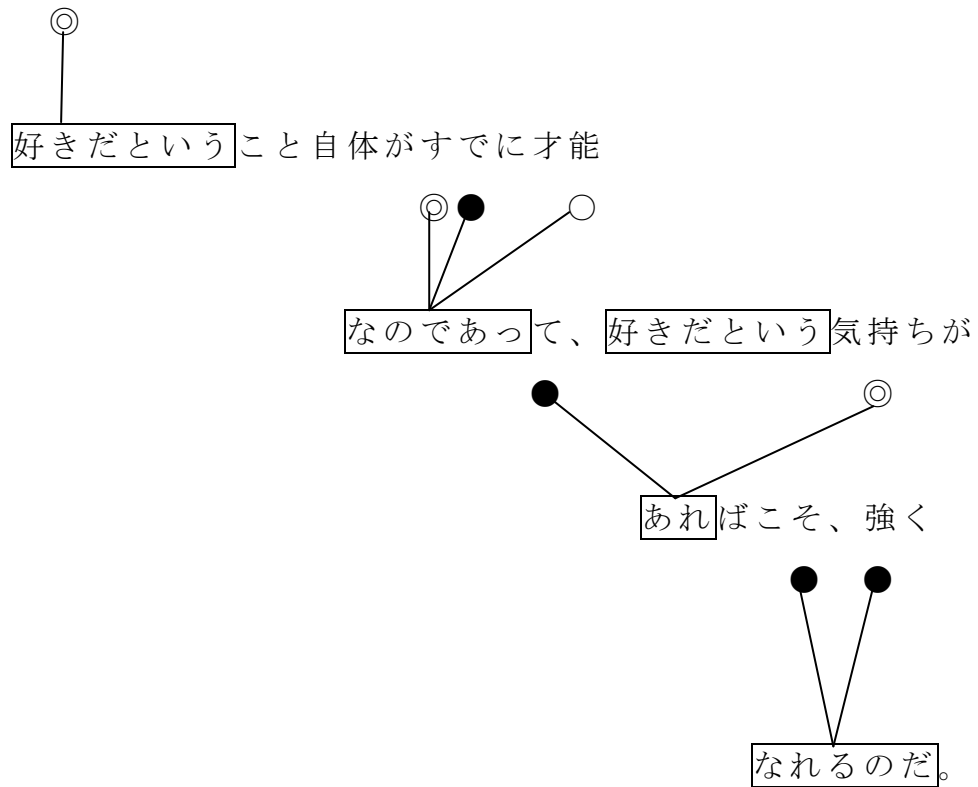
(37a) では『上がる』は後続の「と」、『下がる』は後続の「と」を通じて副詞類に転用される随意成分として『だ』に支配される結合関係を示している。

(38a) 勉強に



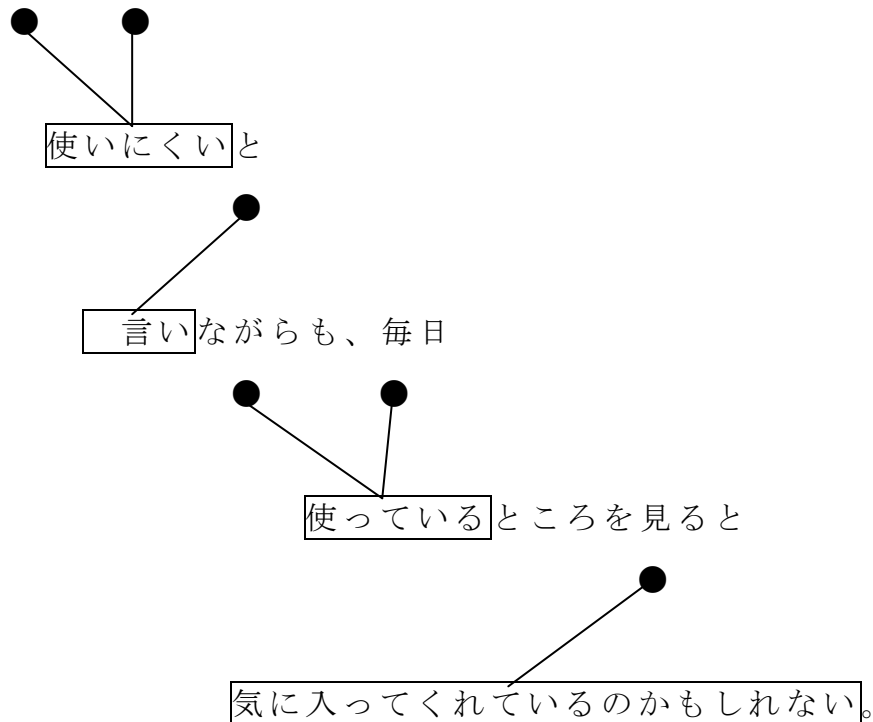
(38a) では『専念する』は後続の「ために」を通じて副詞類に転用される随意成分として『やめたい』、『やめたい』は後続の「が」を通じて副詞類に転用される随意成分として『やめるにやめられず』、『やめるにやめられず』は後続の「ゼロ形式」を通じて副詞類に転用される随意成分として『困っている』というように、いずれも次から次へと前の動詞が後の動詞に支配される動詞間の結合関係を示している。

(39a) 将棋が



(39a) では『好きだという』は後続の「こと自体が」を通じて名詞類に転用される必須成分として『なのであつ』、『なのであつ』は「て」を通じて副詞類に転用される随意成分として『あれ』、『あれ』は「ばこそ」を通じて副詞類に転用される随意成分として『なれるのだ』というように、いずれも次から次へと前の動詞が後の動詞に支配される動詞間の結合関係を示している。

(40a) 長くてなんだか



(40a) では『長く』は後続の「て」を通じて副詞類に転用される随意成分として『使いにくい』、『使いにくい』は後続の「と」を通じて副詞類に転用される必須成分として『言い』、『言い』は後続の「ながら」を通じて副詞類に転用される随意成分として『使っている』、『使っている』は後続の「ところを見ると」を通じて転用される随意成分として『気にはっていているのかもしれない』というように、次から次へと動詞間の結合関係を示している。注意すべきは「ところを見ると」は全体として根拠を示す一つの慣用句的な副詞類に属するという点であろう。

4. おわりに

文の解釈に当たってはもちろん統語論だけではなく、意味論と語用論の観点を適切に運用しなければならないのも理の当然であるが、ただ解釈以前に文の構造をしっかりと捉える重要性はあらためて強調すべきではないか。要は理論的にどの文法理論を使うべきかという点である。この点において結合価文法は結合価構造図を通じて文

の構造を明晰に提示することによって、日本語の学習と教育に絶大な効力を発揮できる理論の一つと考えられよう。

上述したところを見ると、日本語能力検定試験 N1 の組合せ文は多くの場合、結合価文法に基づいた結合価構造図をもとに、単一動詞の結合関係と動詞間の結合関係を把握することによって、本語能力検定試験 N1 の組合せ文を無難に解決することが多かろう。

本稿は多少なりとも日本語教育ないし日本語学の研究に寄与するところがあれば、何より幸甚である。

参考文献

- FILLMORE C. J., KAY P. and O' CONNOR M. C. (1988) 'Regularity and Idiomatcity in grammatical constructions :The case of Let alone' "Language 64 [3] :501-38"
- GOLDBERG A. (1995) "Constructions :A construction grammar approach to argument structure" University of Chicago Press
- 池上嘉彦 (2000) 『「日本語論」への招待』 講談社
- 海野風子蛇蔵 (2010) 『日本人の知らない日本語』 メディアファクトリー
- 大野晋 (1999) 『日本語練習帳』 岩波書店
- 北澤尚 (2008) 「『お送りいただきますようお願い申し上げます』という表現についての一考察」『日語教育與日本學研究論叢 3』 北京師範大學
- 北原保雄 (2005) 『問題な日本語』 大修館書店
- 児玉徳美 (1997) 『修飾文法の研究』 研究社
- 小泉保 (2007) 『日本語の格と文型』 大修館書店
- 小泉保監訳 (2007) 『構造統語論要説 ルシアン・テニエール』 大修館書店
- 小泉保 (2009) 『日英対照 すべての英文構造が分かる本』 開拓社
- 日本語教育教材開発委員会編集 (2005) 『学ぼう！にほんご』 専門教育出版

齊藤孝（2001）『声に出して読みたい日本語』草思社
坂野永理ら（2009）『初級日本語 [げんきⅡ]』The Japan Times
悟原池ら（1997）『日本語語彙体系』岩波出版
趙順文（1995）『結合価文法論考』立昌出版社
山梨正明（2000）『認知言語学原理』くろしお出版
話題の達人倶楽部（2012）『できる大人のモノの言い方大全：1-382』
青春出版